

令和7年度 小中一貫型小・中学校「信篤三つ葉学園」経営方針



小中一貫教育を実施するにあたり、「学校教育目標」を一つにし、高谷中学校ブロックで同一の目標に向かって児童生徒たちを育てていきます。

1 教育目標 「未来を見つめ、心豊かに、自分らしさが輝く児童生徒の育成」

2 目指す学園像

- ・児童生徒、教職員が活力と潤いをもって活動する学園
- ・児童生徒、保護者、教職員が地域を誇りに思える学園

3 目指す児童生徒像標

- ・確かな学力を身に付け、共に学び合う児童生徒
- ・お互いに認め合い、助け合える児童生徒
- ・最後まで頑張り抜く児童生徒

4 目指す教師像

- ・児童生徒の模範となる教職員
- ・豊かな人間力と確かな指導力を高め合う教職員
- ・チームワークを生かして協働する教職員



信篤三つ葉学園
キャラクター
みーニャン

【学校の形態】

高谷中学校、信篤小学校、二俣小学校の「学校名」、「場所」、「校舎」に変更はなく、既存の校舎を使って小中一貫教育を行う。グランドデザインのもと同一方向で教育活動を進める。

【通称名】

3校の正式名称は変わらず、3校をまとめて「信篤三つ葉学園」と呼ぶ。

【取組の検証】

高谷中学校、信篤小学校、二俣小学校の3校での取組を検証し、義務教育学校、東国分爽風学園の研究成果と合わせて、市内の小中一貫教育の推進に生かしていく。

なお、最初の検証期間は、令和4年度から令和6年度までの3年間とし、研究期間においても「小中の一貫したカリキュラム」や「小中学校間の実践的な交流活動」などの取組は、他の中学校ブロックへ積極的な情報提供を行う。

【学校運営を支援する検討体制】

- ①義務教育学校の設置に関する検討委員会
- ②小中一貫型小学校・中学校プロジェクト会議
- ③専門部会（各教科・領域等、生徒指導や教育相談、進路指導等、部活動や生徒会活動、保健や給食等）

【発達段階と系統性を重視した教育課程】

（１）発達段階に即した学年段階の設定

小中一貫教育は、義務教育９年間の中で教育課程の区分を弾力的に設定して、柔軟かつ効果的な教育を可能にします。ブロックの実態に合わせて、「４年－３年－２年」や「５年－４年」などの教育課程の区分を検討し、実施していく。

（２）系統性・連続性を重視した指導計画の作成

義務教育９年間を見通し、途切れることのない一貫した指導方針のもとで、児童生徒の精神的、身体的な発達に即した、高谷中学校ブロック独自の「小中一貫の指導計画」を作成し、系統性・連続性を重視した教育を行う。

（３）学習指導の工夫

小学校段階からの教科担任制導入など、学力の向上を図るための学習体制を検討し、実施する。

また、学級担任制から教科担任制への環境変化の段差を少なくし、小学校段階から中学校段階への移行をスムーズにする。

（４）生徒指導の工夫

３校で、生徒指導に係る情報が共有できる体制をつくるなど、小学生が中学校に進学しても、これまでの対応方針が引き継がれ、児童生徒や保護者の安心感につながる、生徒指導の工夫を検討し、実施する。

（５）部活動の工夫

小学校段階から、中学校の部活動に参加できる環境を整えるなど、部活動の活性化を図る取組を検討し、実施する。

このため、教職員による指導体制や地域の外部指導者による協力体制を整え、早い段階からの活動経験を可能にする仕組みづくりへつなげていく。

（６）教育課程の特例を活用した取組

一貫教育の軸となる新たな教科「わが町・未来探求科」の開始や「学校段階間での指導内容の入替え」等、一貫教育の実施に有効な教育課程の特例の活用について検討し、高谷中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校独自の取組を編成する。